

皆様、新年あけましておめでとうございます。平成27年も業界にとって厳しい状況が続くと思われませんが、今年も「ゴトに勝つ」ための情報を全力で提供していきます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

4機種+追加で「サブ基板」交換の作業のさなかに

昨年9月からの保通協によるスロットの型式試験方法変更により、ホールは現存しているAT/A R

T機を大切に活用して行かなければならない状況ですが、そんな中、またしてもゴト被害に遭ってしまったのが、サミー「パチスロ化物語」です。サミー「パチスロ化物語」に関しては、前号では波形電波による強制AT突入及び大量上乘せという電磁波ゴトについてお伝えしましたが、ここでまずお伝えするのは「不正サブ基板」についてです。電磁波ゴトの続報は後半に書きます。

昨年、日電協加盟のサミー、大都、エンターライズの3メーカーにおいて、過去に不正サブ基板が

確認された遊技機、サミー「パチスロ北斗の拳転生の章」、サミー「パチスロ北斗の拳F」、大都「押忍！番長2」、エンターライズ「バイオハザード5」の4機種のサブ基板を「日電協統一検済シート」を貼付しそれぞれ独自にセキュリティ対策を高めたサブ基板と交換するということがありました。

その後、サミー「パチスロ獣王王者の帰還」、大都「吉宗」でも不正サブ基板の被害が出たことにより、追加で交換作業が実施されることになりました。「パチスロ獣王王者の帰還」は作業開始予定

時期が2015年2月となっているので、今号をお読みの時点では、まだ交換作業開始前のことと思います。

以前と同じ「不正」でキヤップをはめる時かしめ部分に油分

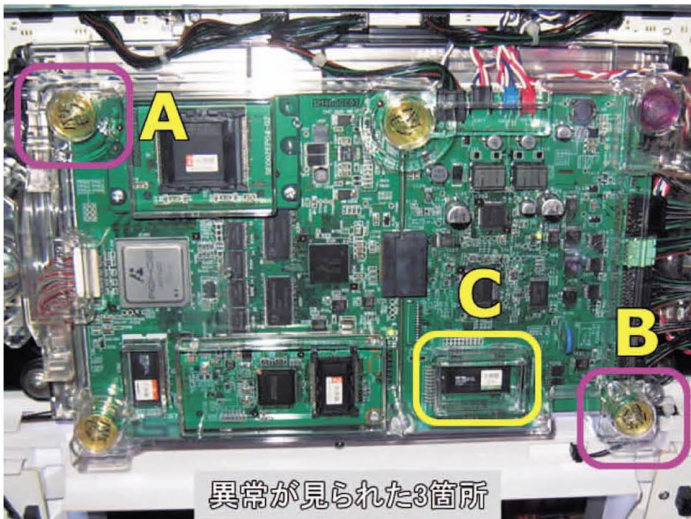
今回、不正サブ基板が見つかったのは中古で購入したサミー「パチスロ化物語」でした。

不正サブ基板の発見を受けて、過去のデータをチェックしても当該店舗では抜かれていた様子がない状況から、以前の設置店舗で不正サブ基板に交換されたものと思われる。

不正に出されるというゴト被害に遭っていなかったことが不幸中の幸いですが、不正サブ基板がついた状態で営業していたということは、知らないうちにゴト被害に遭っていたとはいえ、不正改造された遊技機を設置していたということになりますので、風適法違反としてホールの管理責任が問われる可能性がある事案になりかねません。ホール責任者はもちろんのこと、中古流通に携わる各業者様

ゴトに勝つ 41 高石隆一

電磁波攻撃だけではない 「化物語」に不正サブ基板



にも細心の注意を払って遊技機の点検を実施して頂きたいと思えます。

今回のサミー「パチスロ化物語」から見つかった不正サブ基板の異常(特徴)は、これまでに発見された不正サブ基板と同様の異常が見られました。

異常Aとして、かしめ内部に油分が付着していて、内部がはつきり見えずに油分によってモヤモヤして見える状態でした。過去の不正事例では、手で触るとヌルヌルしていたという状況も確認されて

おります。この油分というのは、1度開封したかしのキャップを不正サブ制御ロムと交換後に、再度かしのキャップをハメ込む作業をする時に、油を塗ってすべりをよくするために使用された油の量が多かったために残ってしまつたものと思われる。



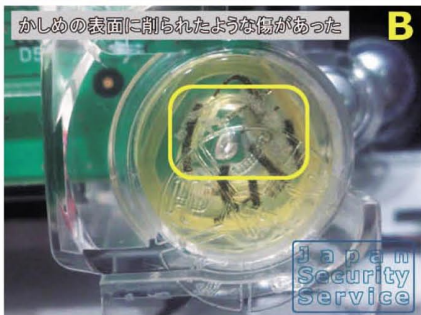
かしめ表面が傷つき ロムの足が波打つ 不審点のいろいろ

異常Bとして、かしめキャップ表面に正規の刻印以外に削られたような傷が入っていたというものです。これも不正サブ制御ロムを仕込むための作業中についた傷と思われる、過去の不正事例では、かしめキャップの形状自体がいびつに

変形したというケースも確認されており。

異常Cとして、サブ制御ロムの足が波打っていたというものです。過去の事例では、サブ制御ロムの足がしっかり刺さっていないというケースや、足の一部が折れていたりというケースも確認されており

今回の発見経緯以外の異常事例として、「サブ制御ロムの型式名シールが剥がれかけていた」、「サブ基板上部に刺さっている配線のコネクターがしっかり刺さっていないかった」、「サブ制御ロムの型式シール上にゴミが付着していた」という不審点から不正サブ基板を発見したケースもありますので、点検作業を実施する際の参考にしていただければ幸いです。



「点検シール」だけで 安心はできない 「基板」仕込まれると

過去に不正が発見されたAT/ART機は、「日電協統一検済シール」を貼付しそれぞれ独自にセキュリティ対策を高めたサブ基板と交換することで、不正サブ基板の被害が終焉を迎えているように思われております。しかしこれらの遊技機は波形電波による強制AT突入及び大量上乘せという電磁波ゴトなど違う手口で標的にされ、サブ基板の交換対象以外のAT/ART機が不正サブ基板の標的になるという図式は過去のゴト被害の傾向から推測できます。

これまでに見つかった不正サブ基板と同一、あるいは類似の構造をしている遊技機は、いつ不正サブ基板が出て不思議ではありません。

不正サブ基板が仕込まれてしまうと、不正プログラムを起動させる特殊な遊技手順(セット打ち)をおこなうことよって、AT/ARTの誘発や連チャンが自由自在に発動させることができるように



ホールスタッフや一般のお客様に犯行を目撃されないように見張り役が監視している様子



実行役が打ち子の台に手を伸ばし電磁波を照射している様子



電磁波照射の影響で枠ランプが点灯した瞬間の様子

なりません。

そのセット方法は、投入枚数やスタートレバー、各種BETボタンやストップボタンを押す回数や動作時間の組み合わせをコマンドとしているケースが多く、上手くセットされると普通の遊技者との違いはまったくわかりません。

打ち子を次々替えるゴト師たちの皮肉なセキュリティー対策

しかも、打ち子はホールの稼働状況を見て派遣されるようで、稼働が良いお店では連日あるいは数日おきに老若男女様々な打ち子を交代で派遣することで、特定の人

物が特定の台で怪しい勝ち方をするとということからの発覚を避けるように計画的に打ち子が派遣されているとのこと。また、打ち子の暴走を防ぐために、不正サブ制御ROMには一日の不正プログラムの稼働上限が設定されていたり、一度使用したセット方法が無効になるようにプログラムが組まれていたりして、ゴト作業に関するセキュリティー対策の機能も搭載されているとのこと。不正をする側のセキュリティー対策という、なんとも皮肉にも聞こえる話ですが、発覚を遅れさせて上手に長期に渡って莫大な金額を抜くために、こんなにもゴトは進化しているのです。

「攻殻S.A.C.」に波及「ゴト手順再確認」注意を継続するように

前号でお伝えしたサミー「パチスロ化物語」の電磁波ゴトですが、残念な予想がまたも当たってしまいました。過去のゴト被害のパターン通りに同メーカーの他機種にゴト被害が波及するということが、

メーカーによるサブ基板の交換作業を待っているだけではなく、今回お伝えした異常ポイントを参考に、まずは自店のAT/ART機のサブ基板に異常が無いかの点検を実施してみてもいいかがでしょうか。

「パチスロ化物語」に続いて、サミー「パチスロ攻殻機動隊S.A.C.」も11月中旬頃から電磁波ゴトの被害が発生しております。既にメーカーからも昨年12月12日に

全日遊連を通じて、各ホールにサミー「パチスロ化物語」と「パチスロ攻殻機動隊S.A.C.」について、強力な電磁波を照射して強制的にAT状態にするといった電磁波ゴトが発生しているの、複数人で訪れ遊技機を囲む、「遊技機の左側面に手を添える動作を行う」、「液晶やリールランプ、下パネルの照明がちらついている」、「E1エラー(表示基板にE1と表示)が発生する場合があります」ということに注意してくださいとの注意喚起文が発出されております。

実行役の不審な挙動約3分間にわたって枠ランプなどが点滅

弊社に寄せられた「パチスロ攻殻機動隊S.A.C.」の電磁波ゴト被害の発生状況は、次のような状況でした。2人組による犯行で、先に壁役が入店して「パチスロ攻殻機動隊S.A.C.」の防犯カメラ寄りの隣の台に着席し、その後に実行役が入店して来て「パチスロ攻殻機動隊S.A.C.」に着席すると、壁役が防犯カメラからの死角を作るように立ち上がり壁をつくり、

実行役は左手をMAXBETボタン

付近に置きました。実行役が左手を下ろすまで、約3分間に渡って枠ランプ等が激しく点滅し続けました。この不審な状況に気が付いたホールスタッフが、当該台に向かったところ、被害台はATに突入しており、約1000ゲームの上乗せがされた状態になっていました。これらの不自然な状況から遊技の中止と出玉の交換に応じられないことを伝えたところ、ゴト師は素直に退店していったとのことで、実被害なく済んだ事例になります。

まだ、被害情報が少ないため詳細な手口は判明しておりませんが、「パチスロ攻殻機動隊S.A.C.」は「パチスロ化物語」と同一筐体であり、過去には両機種ともセルゴトによってニセレア小役情報を送り込む手口で被害が多発しました。前号でもお伝えしましたが、今回の電磁波ゴトの手口は、基本的に過去のセルゴトと不正の内容は一緒で、セルを使ってニセのレア小役情報を送り込んでいたものを、セルではなく強烈な電磁波を使ってサブ基板へニセのレア小役情報（波形電波）を送り込んでいるもの

と推測されます。

電磁波の手口に変化 まず打ち子が普通に 打ってATになると

この波形電波による強制AT突入及び大量上乗せという電磁波ゴトの手口も、使い方に変化がみられています。ある店舗で発生した電磁波ゴトは、これまでの電磁波ゴトとは違って、打ち子が「パチスロ化物語」でATを引き当てるまで普通に遊技して、打ち子がATを引き当てるまでの間、実行役も周辺の台にて普通に遊技をしていました。

打ち子がATを引き当てる、それを確認した実行役は打ち子の左隣りに移動し、打ち子が遊技する台の筐体左側付近（下パネル横付近）に電磁波を照射するアンテナを隠し持った右手を40秒ほどあてた後に実行役は退店しました。

打ち子は、そのまま途中交換をおこなうことなく堂々と遊技を続けて、最終的に約1万枚のメダルを交換されてしまいました。たった40秒ほど電磁波の照射で大量に抜かれてしまったのです。後日、

怪しい出方をした台があったというところで、防犯カメラの録画映像をチェックしたところ、電磁波ゴトの被害に遭っていたということに判明しました。この店舗は被害に気がついたことで、次に備えることが出来るでしょうが、被害に気が付いていない店舗がどれだけ多くあるのでしょうか…。

型式試験方法変更で 現有機を大切に チエツク怠らずに

この方法だと、これまでの手口より電磁波を照射している時間が極端に短くなり、普通に遊技している時間が長くなることで、店舗側がゴトだと気が付くチャンスが少なくなります。しかし、初当たりまでの投資金がかさむ可能性があり、無駄な時間も多くなるこの方法は、効率よく荒稼ぎしようとする多くのゴトグループは実践しないでしょう。ただ、捕まることに対して慎重で、狡猾な一部のゴトグループが実際に実行している手口であり、今後ますます進化した使い方をしてくる可能性があります。

電磁波ゴトの被害に関しては、

今後は他のサミー系のAT/ART機のみならず、これまでにセルゴトの被害が発生した他メーカーのAT/ART機にも波及するものと予想しております。冒頭にもお伝えしましたが、保通協によるスロットの型式試験方法変更により、ホールは現存しているAT/ART機を大切に活用して行かなければならない状況です。ゴト犯罪をセンサーなどで防護して出来ないようにすること、ゴト犯罪を接客でさせないようにすること、その結果ゴトグループを諦めさせて来店させないようにすること、この「出来ない！させない！来させない！」というのが、弊社JS Sが掲げるゴト対策の基本です。「出来ない！させない！来させない！」で、大切なAT/ART機を守りましょう！

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキユリティー会社を経営して2003年、有限会社ジャパンセキユリテイサービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務める。また、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「二期会」が座右の銘。